C－4　衣服原型に関する人間工学的研究－衿ぐり及び肩傾斜角度について－

実践女短大家政　高橋伸子

目的　衿ぐり及び肩傾斜角度の決定の作業は、衣服の人体に対する適合度に及ぼす影響が非常に大きい。既存の衣服原型では、仮縫の際に衿ぐり及び肩傾斜に補正を必要とする場合が非常に多い。この原因は着用者の体型がバラエテイに富んでいるためであり、体型、なかでも頸付根周辺の形態及び肩型を適切な方法で類型別化することによつて、出来るだけ適合度の高いPATTERNを得ることが可能であると考えPATTERN作業上の理論的裏付けを追求した。

方法　シルエツター及びマルチン式の実測測定で、人体側に由来する因子；身性の数量的分析をして基本データーをとり、適正補正量を抽出した。その結果に基いてPATTERNを作成し、旧来の手法によるPATTERNとの間の優劣を、着用実験によつて判別した。

結果　着用実験の結果適正補正量により補正したTOILEを着用したものは、後頸付根周辺の面積がまだいくらか不足しているため、後身頃がネツクポイントに引かれて"フレヤ"状の浮が出ており、ネツクポイント、肩峰点の位置も多少のずれはあるにしても、現在使用されているパターンで作製したTOILEよりも適合度が高い。更に完璧な適合度を得るためには、若干の補正を必要とするにしても、それはごく少量の補正量で手軽に補うことが出来るので、現在使用されているPATTERNの衿ぐり及び肩傾斜角度は、本研究結果のように改良することが望ましいといえる。